



—東地中海地域ニュース—

シリア：マシュアル・ハマス政治局長演説

(6月26日付ティシュリーン紙)

25日、マシュアル・ハマス政治局長がダマスカスで演説を行った。26日付現地ティシュリーン紙によるマシュアル局長の発言概要は以下の通り。

1. ハマスはパレスチナにおけるイスラエルの占領を終結させるため、いかなる国際努力とも協力する。また、ハマス及びパレスチナ諸派は、米新政権と前提条件なしで直接交渉を行う用意がある。
2. ネタニヤフ・イスラエル首相が表明したパレスチナの権利に関するイスラエルの立場を拒否し、パレスチナ解放と権利回復のため戦略的選択として抵抗を選ぶ。特に「イスラエルのユダヤ性」を掲げるイスラエルへの加担は600万人のパレスチナ難民の故郷への帰還を妨げるものだ。
3. ハマスは、パレスチナ国民対話及び迅速な分断の終結とパレスチナ国民和解実現を目指しており、この目的のための努力ならばハマスは協力する。
4. 2日後、ハマスのメンバーはファタハとの対話再開のためカイロへ向かう。
5. イスラエルに対し、1万2千人に及ぶパレスチナ人捕虜の解放を求める。また、イスラエル人捕虜であるギルアド・シャリートとの捕虜交換取引の用意がある。
6. 米の言葉には変化が見られたが、この変化は未だ実行されていない言葉に過ぎない。大国に対し、効果的なイニシアチブとイスラエルへの働きかけを求める。
7. 欧米によるイスラエルへの政治的・軍事的・経済的支援がイスラエルの国際法や人権の軽視につながっている。この点において欧米にはイスラエルの過激主義と頑迷の大きな責任がある。

8. キリスト教・イスラム教聖地の冒涇、パレスチナ人家屋や地区の破壊と住民の追い出し、西岸の土地の強奪と入植地建設、包囲壁や道路、数百のフェンスによる分断に加え、パレスチナ人は今もあらゆる不正や抑圧、暗殺、逮捕、虐殺に耐えている。また、封鎖されたガザは、通行所の封鎖、建設の遅れ薬品や食糧等の生活に欠かせない物資の不足という状況下にある。

9. パレスチナ問題は形式的な問題ではなく、国家・アイデンティティー・自由・歴史・主権・帰還権の問題である。また、土地は自治権よりも重要であり、解放は国家に先立つものである。だからこそハマスはエルサレムを首都とし、完全な主権を有し、1967年7月4日ラインを国境とするパレスチナ国家建設、占領軍の撤退、全入植地の排除及び帰還権実現にこだわるのだ。